

令和5年 第1回
村山市議会定例会

令和5年度

施政方針

令和5年3月

村山市長 志布隆夫

令和5年第1回市議会定例会の開会にあたり、市政運営に対する私の基本的な考え方と主な施策を申し上げます。

本市では、これまで第5次総合計画の基本理念である、『次の世代へ引き継ぐ魅力ある村山市を創る』の実現に向け、様々な施策を展開してまいりました。

去年は、にぎわい創造活性化施設『Link MURAYAMA』を7月にオープンしました。百余年の伝統と歴史を持つ県立楯岡高等学校が村山市の新しい顔として生まれ変わりました。各事業者のオフィスやコワーキングスペースなどとして活用しているほか、民間事業者のアイデアを取り入れたイベントも多数開催するなど、かつての楯岡の「まち」のにぎわいと新たな経済効果を生む拠点として大いに飛躍するものと考えております。

これからの村山市においては、中心市街地のにぎわいや交流を呼び込み、周辺エリアにおいては、居住や教育、働く場所の基盤を確立することが重要であります。

令和5年度予算では、新「道の駅」整備など駅西エリア開発の進展や中心市街地の活性化による『まちの魅力とにぎわいの創出』、子育てスマイルプロジェクトを始めとした『少子化対策、子育て世代の定住の促進』、住宅団地の整備や防災機能の強化など持続可能な村山市を実現させる『SDGsによるまちづくり』、これらの施策に対し積極的な予算配分を行ったところです。

それでは、これらの施策を中心に主な取組みを説明いたします。

(1) まちの魅力とにぎわいの創出

本市の最重要プロジェクトとして「駅西エリア開発」を掲げているところですが、令和5年度は、その目玉である新「道の駅」整備に関する基本計画の策定や駅西開発エリアの造成事業など本格的に事業に着手します。

新「道の駅」は、村山市の経済・地域活性化の将来を担う重要な施設であり、そのコンセプトや民間事業者のノウハウ、民間資金活用の可能性の検討など、具体的な進展を図ってまいります。

また、商業開発エリア、企業誘致エリアとして設定しているヤマザワ北側及び西側用地については、市で造成事業を実施することにより企業進出を促進します。

さらに、「次世代まちづくり開発促進事業補助金」による商業用地等の開発への助成や、アクセス道である市道駅西中央5号線、市道楯岡長瀬線の整備を実施し、駅西エリア開発を推進してまいります。

次に、中心市街地の活性化事業として、都市計画道路楯岡東根温泉線の整備や狭隘な市道の拡幅を進めてまいります。併せて、道路沿いにポケットパークを整備し、くつろぎの場とするとともに、冬季には雪押し場として活用できるようにするなど空間の有効活用を図ります。

また、空き家・空き地対策としても、商店街の利便性向上に向けて未活用の土地を駐車場などに生まれ変わらせるなど、より快適でにぎわい溢れる街並みを創出してまいります。

(2) 少子化対策、子育て世代の定住の促進

子育てへの不安を解消し、出生数の増加、子育て世代の定住促進を図ることを目的に「子育てスマイルプロジェクト」として子育て支援を推進してきたところです。

これまで、小学校入学時のかばんの支給や児童手当の上乗せ支給、外国人講師による就学前からの英語教育など、経済的な負担軽減から教育環境の充実まで幅広い施策を展開してまいりました。

令和5年度からは、先進医療を活用した不妊治療費用助成や妊娠届出前の産科受診費用助成、歯の交換期のパノラマX線写真検査費用の助成をスタートさせ、これまで以上に切れ目のない支援を実現してまいります。

また、子育て応援・定住促進事業補助金に新婚世帯、移住世帯への支援を追加し、最大300万円を支給することとしました。住みやすさ、育てやすさを追求することで、子育て世代の定住促進を図ってまいります。

教育分野においても、むらやま英語教育推進プランをさらに進展させ、市内全ての小学校において、英語教育の空白期間である1、2年生向けの英語教育カリキュラム導入を推進します。学力向上プロジェクトやGIGAスクール構想についても、引き続き推進していき教育環境の充実を図ってまいります。

子育て支援は未来への投資であり、大胆な施策を展開していくことで将来の村山市を豊かにしていくものと考え、これからも本市の重要施策として実施してまいります。

(3) SDGsによるまちづくり

SDGsは平成27年の国連サミットで採択された、誰一人取り残さない持続可能なより良い社会実現に向けた国際目標であります。

人口減少問題が深刻化する中、持続可能な社会を形成することは、『次の世代へ引き継ぐ魅力ある村山市』を実現させるうえで必要不可欠であります。

まず、居住環境の整備や働く場所の創出により移住、定住の促進を図ります。俵町の旧市営住宅団地跡地での宅地造成事業、南原工業集積地での新工業団地整備、これらの事業により特に若い世代の移住、定住促進を図ってまいります。

防災対策としても、自然災害による断水に備えるため、幕井水源を利用した浄水施設を整備するほか、北村山三市一町による消防指令業務の共同運用に向けた体制を整備し、大規模災害での応援体制の強化など災害に強い強靱なまちづくりを推進してまいります。

また、村山市DX推進計画を策定し、「誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化」を目指します。特に、電子申請などのデジタル手続きが進展していく中、高齢者のスマートフォン普及を重要課題と捉え、初めてスマートフォンを購入する高齢者に、購入費用の助成を行うことで普及拡大に努めます。

このほか、高齢者の带状疱疹ワクチン接種費用への助成など新たな支援も実施し、様々な事業により持続可能な村山市を創ってまいります。

むすびに

昨年 10 月には東北中央自動車道が開通し、全国の高速道路ネットワークと繋がることで、首都圏から高速道路での往来が可能となりました。本市にとってこれは大きなチャンスであり、この機を逃さず、魅力ある村山市を発信、構築することで本市の更なる発展に繋げてまいります。

新型コロナウイルス感染症により落ち込んだ消費者需要を巻き返し、次の経済成長を迎えられるよう、令和 5 年度は今まで積み上げてきた施策を着実に、そして大胆に実行していくとともに、新たな事業にもチャレンジしてまいりますと考えております。

最後に、改めまして、市民及び議員の皆様、さらには村山市の発展にご尽力いただくすべての関係者の皆様に、ご理解とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。